第５回 新潟市新バスシステム事業評価委員会（第１部） 議事要旨

■日時：平成 29 年 10 月 2 日（月） 13：30～15：30

■場所：新潟市役所 本館 3 階 対策室 3

■出席者（敬称略）

委員

谷口 守（委員長/筑波大学 教授）

大串 葉子（新潟大学 経済学部 准教授）

鈴木 文彦（交通ジャーナリスト）

近野 茂（公認会計士）

早福 弘（新潟商工会議所 専務理事）

岩脇 正之（新潟市区自治協議会会長会議 座長）

菊野 麻子（NPO 法人ワーキングウイメンズアソシエーション 副理事長）

横尾 文子（NPO 法人まちづくり学校 理事）

オブザーバー

清水 巌（国土交通省北陸信越運輸局交通政策部 部長）

渡邉 博幸（国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所計画課 課長）

本間 義昭（新潟県警察本部交通部交通規制課 企画管理補佐：代理出席）

■議事概要

(1) 委員会の進め方に関する主な意見

- 中間評価は、来年 12 月頃に開業後３年間の実績により評価を行う。
- 昨年度の委員会で指摘された点に対して、どのように対応したかの対応表を整理すべき。
- 委員会での意見に対して、実現可能性等を検証しフィードバックできる仕組みを作っておくべきではないか。
- 評価の公表にあたっては市民目線を意識すべき。

(2) 事業評価に関する主な意見

- 新バス事業の評価としては、評価指標が細かすぎる印象がある。もっと単純にし、市民の方にわかりやすいものにすべき。
- 評価項目については、出来る限りリアルタイムで評価できる指標にすべき。
- 24 項目以外の参考指標の取り扱いを示してほしい。
- 評価指標の中の IC カード「りゅーと」に限定した基準は、Suica 等も含めた IC カード全体としたほうが良いのでは。
- 市外在住者の評価としては、駅前・市役所・ターミナル等、結節点に対する評価は高いが、一般路線と BRT との差別化やアイデンティティといった評価が低い。まずは BRT 路線の一般バス車両を統一した運用ができるかどうかの検証を行うべき。

(3) その他

- ダイヤ改正による寺尾線・大堀線ダイレクト便と萬代橋ラインのバス停の統一は運用後の確認が必要。
- 今後も鉄道とバスとの結節機能強化を進めていくべき。
- 高齢者の外出率の増加、公共交通利用率の増加は、全国的な傾向となっている。新潟市の人の動きのデータと全国のデータを比較できるように整理してほしい。
- ダイヤ改正の効果について確認する必要があるのではないか。
- 課題を短期・中期・長期に分けて整理してほしい。